



校訓： 進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

# 英田っ子

学校だより 11月号

平成29年11月1日

校長 藤井 恒雄

## 「一生懸命」～努力することの大切さ～



学校周りの木々を彩っていた紅葉は、先日の強風で随分落ちてしまい少し寂しく感じられます。

11月7日は、二十四節気の一つ『立冬（りっとう）』です。立冬は暦の上で冬が始まる日とされ、全国各地で紅葉が進み、山や北日本では初雪の便りが聞かれるようになります。また、日暮れが目立って早く感じられるようになり、金沢では日の入りが1か月で約40分早まり、今日の日の入りは16時57分です。日の入り時刻とともに暗くなるのも早くなります。すぐに気温が下がり、寒さを感じるようになります。防犯面からも、暗くなる前に自宅に帰っているようにしたいものです。

10月も様々な行事がありました。1～4年生の遠足（6日）、6年生町小学校体育大会（4日）、5年生河北潟水辺の学校（3日）と白山での宿泊体験学習（12～13日）、校内マラソン大会（20日）、郡市読書感想文コンクール、図画や書写作品展への出品など、まさに文化の秋、芸術の秋、スポーツの秋の1ヶ月でした。10月の集会では、Chance（チャンス：機会）に、Challenge（チャレンジ：挑戦）し、Change（チェンジ：成長）の話をしました。行事だけでなく学習場面でも、目を輝かせ勉強する姿、静かに話を聴く姿、爽やかにあいさつする姿など多くの「清しい、美しい姿（カッコイイ姿）」を見せてくれました。一步一步ですが、子どもたちの着実な成長を感じています。

今日の集会では、一生懸命努力することの大切さについて話しました。日本人野手初のメジャーリーガーとなり、今はマイアミ・マーリンズで活躍しているイチロー選手。日本のプロ野球では、史上初のシーズン200本安打達成、日本のプロ野球記録である7度の首位打者。メジャーリーガーになっても、新人としての最高打率、262本というシーズン最多安打記録をマークし、40歳を過ぎた今も現役で活躍しています。この天才的なバッター、イチロー選手がこんなことを言っています。「努力せずに何かできるようになる人のことを『天才』と言うのなら、僕はそうじゃない。努力した結果、何かができるようになる人のことを『天才』と言うのなら、僕はそうだと思う。人が僕のことを努力もせずに打てるんだと思うなら、それは間違いです。」「人は私のことを天才と言うけれど、私は人の何倍もトレーニングしたりバットを振ったりしているからこそ打てるようになったんです。」努力を怠ってはいけないと言っているのです。夢や目標を実現するために、「努力に勝る天才なし」です。

先日視聴したNHK番組からです。村田諒太選手（WBA世界チャンピオン）が世界タイトルマッチ再戦前に重圧に苦しんでいた時。「人として問われている。今、何をすべきか。」の答えとして、「勝負の結果だけにこだわらず、目の前のやらなければならないトレーニングを一生懸命やるだけ。」と語っていました。今を一生懸命に生き抜くことの大切さを感じました。

4月以来、子どもたちががんばっている姿を多く見られるようになってきています。これからも苦手なことに背を向けず、一生懸命、算数の計算や新しい漢字を覚えたり、体育でバスケットのドリブルが上手になったり、歌を楽しく歌ったり等…一生懸命努力する中、きっと「分かった!」とか「できた!」といううれしい気持ちもいっぱい味わえます。そして、大きくなって生きていくときに必要な力（智慧や技、思いやりやマナー、粘り強さ等…）となっていくと思います。今後もご支援ご協力をお願いいたします。

